

# とぎには、辛口

6

## ◆おかしなおかしな五十年



松本道介  
Michisuke Marumoto

### 日本シリーズ、そして大リーグ

今年の秋はテレビでずいぶん野球を見てしまった。日本シリーズもさることながらアメリカ大リーグもプレイオフ、ワールド・シリーズとも緊迫した好試合が多くて一旦テレビをつけるとなかなか消すことができなかつた。昔を思えば野球の技術はたいへんな進歩をしたものだと思う。直球とカーブくらいしかなかったピッチャーの球種は五種類にも六種類にもなり、百四十キロ台の速球とて常になんらかの変化をしているという。

それでも優位にあるのはバッターの方ら

しく、ちよつと配球をまちがえるとたちまちホームランが出てしまう。昔の野球では考えられなかつたことである。

またまた「昔」という言葉を持ち出してしまった。老人というのは大昔から「昔」という言葉を持ち出す人種として知られるが、最近の私はそのことを重々知りつつ、あえて「昔」を持ち出すことにしている。

というのも私の少年時代から現在にいたるまでの五十年は人類の歴史ををふりかえつてもまったく類のない、特殊特別な五十年だと思ふからである。今年がテレビ放送の開始五十年の年であるが、当時はテレビはむろん

のことクルマにエアコン、掃除機、洗濯機やパソコンにケータイ……家庭にはいつさいなかったのである。父母の世代にも祖父母の世代にもなく、人類の歴史を何千年何万年さかのぼってもそんなものはなかつた。

昔は…

調理やフロのためのガスとて都市ガスという言葉が示すとおり大都市にしかなかつたのである。なかつたから、掃除、洗濯、まきわりぜんぶ自分の手、自分のからだだけでやってたし、クルマに乗るところは歩くか自転車に乗るかして出かけていた。

クーラーはまったくなく、冬の暖房も火鉢かこたつだつたから、家のなかと外との気温もあまり変わらない。そのせいか昔の子供は外でよく遊んだ。私など高校時代に進学が気になって運動部に入らなかつたことを今でも残念に思っているが、それでも草野球はよくやった。学校から帰れば近所の子供同士でキャッチボールなどするのはほとんど日課のようなものだった。

というあたりで最初のプロ野球の話にかえるのだが、今はプロの技術がたいへんな進歩

をとげたかわりに、アマとの差というかふつうの人間との差がとてつもなく開いてしまった。子供たちを見てもリトル・リーグで活躍する少年たちなどまさに昔の少年では考えられないほどうまくいけれども、その背後にはまったくスポーツをやらない少年が多数いるらしい。したがってとすべきか小学生全体の走力や跳躍力、遠投力いずれも昔にくらべるとずいぶん落ちている。

それが大人になると、運動をしないだけではない、歩くことすらほとんどしていない人が大勢いる。すべての動物のうちまともに二足歩行、つまり歩くという行動のできる唯一の動物である人間が歩かなくなっただけとはなんたることだろう。

### 「生活習慣病」…生活も、学問も

昨今よく耳にする生活習慣病なる病気(?)の一番の原因は歩かないことだという。生活習慣病というのは見れば見るほどおかしな言葉である。格別な不摂生をしているのでもない、ごくふつうの生活を送っていることが病気になるのだから本当におかしい。現代人の日常生活自体が病んでいることになるの

だろう。

ではスポーツの第一線の選手は病んでいないのかと言われれば、やはり彼らも病んでいと思う。例えば一流投手の多くがヒジの手術を経験しているのはまさに異常である。昔、*スプリング*を持ち出せば、有名な選手が怪我や病気で欠場することなどまったくなかった。こうした不健全はむしろスポーツだけのことではない。学問の世界などもっと大きな不健全、不均衡が巣喰っているような気がする。

例えば円周の直径に対する比率 $\pi$ は現在一兆二千億桁まで計算されているという。この円周率はいくら割っても割り切れないので無理数というのだそうだ。むしろ無理数にもいろいろあるあつて、1割る3も割りきれないが、 $\sqrt{2}$ が続くだけなので誰も割る人はいない。しかし $\sqrt{3}$ はいくら割っても数字にくりかえしがないので、昔からかなりの桁まで割る人がいてそれが一種の学問的業績にもなっていた。最近ではコンピューターの発達のおかげで一兆二千億桁まで割る学者が出てきた。その数たるや一頁に数字を千字書けるノートをういたとして十億頁以上というのだから、私など考えただけで目がまわる。

ある中学生新聞の質問欄に、無理数はなぜ割りきれないのですかという質問が出ていた。答えは「割ってはならないものを割っているから」というもので、私はなるほど納得した。今学問をふりかえると、いたるところで割ってはならないものを割っている。理系の学問だけでなく文系の学問でも、対象をこまかく分析、分解……つまりこまかく割ることばかりに熱中して肝腎の原点を忘れていく。

原点を忘れるとは、円周率の計算に気をとられて円そのものを忘れることである。よく言われるように今の小学生は、小数の計算が苦手だという。電卓という名のコンピューターがあるせいだろう。大人だって皆電卓で計算しているのだから。小学生とて大人になれば手で計算する必要のないこと、ましてや小数計算など必要ないことはよく知っている。というわけで小数は苦手……、では仕方がないと文科省は円周率を3と教えてもいいことにしたそうだ。だが3というのは正六角形の周囲と同じなのである。つまり円周率を3にするともはや円は円でなくなる——それでもいいというのだから、おかしな世の中になったものだとつくづく思う。(文学部教授)